

calimax Bellina

取扱説明書

1. 序論
 - 1.1 はじめに
 - 1.2 資料インフォメーション
 - 1.3 責任
 - 1.4 識別
 - 1.5 参照規格
2. 安全に関する仕様
 - 2.1 概略
 - 2.2 ストープ本体に関連する危険
3. 製品説明
 - 3.1 取扱説明書の読み方
 - 3.2 燃料について
 - 3.3 ベルリーナについて
 - 3.4 技術データ
4. 設置
 - 4.1 概要
 - 4.2 排気口と接続排気管
 - 4.3 燃焼空気の入入れ
 - 4.4 電気配線
 - 4.5 設置
5. スタートと操作
 - 5.1 稼動操作の機能的な特徴
 - 5.2 スタート
 - 5.3 コントローラーの概要
 - 5.4 セッティングリング／目盛り
 - 5.5 キーについて
 - 5.6 シグナルダイオード
 - 5.7 ディスプレイ
 - 5.8 メニューツリーとシンボルマーク
6. クリーニング、メンテナンス、検査
 - 6.1 クリーニング
 - 6.2 メンテナンスと検査
7. トラブルシューティング

1.序論

1.1 はじめに

この度はカリマックのペレットストーブをご購入頂きありがとうございます。カリマックスという名前、生活の中の炎は革新的な製品や優れたデザインのみには立ち止まらず、品質とサービスが同義になることを意味しています。私達はすべてのストーブを操作および状態完璧であるよう注意深くチェックします。ストーブが到着時注意深く損傷及び付属品が完備されているか確認して下さい。

1.2 資料インフォメーション

この資料には下記の手助けとなる情報が含まれています。

- ・ 安全なストーブの操作
- ・ ストーブが持っているポテンシャルの活用
- ・ ストーブの定期メンテナンス

もし本マニュアルにてご不明な点がございましたら、販売店または輸入元へお聞き下さい。また本マニュアルはいつでも取り出せて読めるように保管して下さい。本マニュアルはストーブを処分するまで保有し、また新しいオーナーへは引き渡して下さい。本マニュアルを失くしたり読めなくなった場合は販売店へ新しいマニュアルを要求して下さい。

1.3 責任

人的損傷および物損の場合、ストーブの設計上の欠陥が認められる場合に限りメーカーは設置基準及び安全に責任を認めます。ただし下記が推定される場合は責任の範囲外となります。

- ・ 不適切な使用
- ・ 不適切な操作
- ・ メンテナンスが不十分
- ・ 規格品以外の部品の使用
- ・ 無許可または不適切な改造

1.4 識別

定格表示プレートがホッパー内またはストーブ背面に貼られています。そこからシリアルナンバーを書き留めて下さい。また販売店、モデル、設置日を本マニュアルに記入して下さい。この情報はクレームの保証や部品の交換に必要となります。

モデル	
販売店	
シリアルナンバー	
設置日	

1.5 参照規格

本マニュアルは設置、操作手順においてその一部あるいは全てが規制から逸脱している場合があります。必ずその国の法令を優先して下さい。

1.5.1 適合声明

Statement of conformance		
Company	calimax Entwicklungs- und Vertriebs-GmbH Bundesstrasse 102, AT-6830 Rankweil / Austria	
Product	Bellina Pellet Stove PE 050101	
Type		
Version		
Option		
Serial number		
EC guidelines observed		Applied norms, specifications
• Machines 98/37/CE • Low voltage (el. appliances) 73/23/CEE • Electro-magnetic compatibility 89/336/CEE		• Safety of machines, equipment and plant EN 292, part 1 EN 292, part 2 • Electric equipment of non-electric appliances for domestic use and similar purposes EN 50165 • Electro-magnetic compatibility – demands on household appliances, electric tools and similar electric devices EN 55014, part 1 EN 55014, part 2 • Safety of electric devices for domestic use and similar purposes DIN EN 60335-1 (10/95) • Room heating appliance for burning wood pellets EN 14785-2005
This is to certify that the product described above corresponds with the mentioned EC guidelines.		
		 Company Management

2.安全に関する仕様

2.1 概略

ペレットストーブの設置及び操作は必ず取扱説明書を読み理解した上で行って下さい。

技術レベル：納品されるペレットストーブは最新のテクノロジーレベルに対応しています。

適合された規格は適合声明書にリストアップされています。しかしながら、取扱説明書の手順に従わない場合は危険を引き起こすことになります。

2.1.1 危険マーク

取扱説明書の中で危険な事項ならびに重要事項につきましては下記に示すマークおよび注意文字にて表記します。



警告マーク

- ・ 潜在的に危険な状況を意味しています。
- ・ 操作及びクリーニングに関連している。
- ・ 軽い損傷または可能性があることを警告しています。
- ・ ストーブ本体ならびに特性への重大なダメージ、必然的な障害の可能性のあることを警告します。



危険マーク

- ・ 危険な状況を意味します。
- ・ 操作及びクリーニングに関連している。
- ・ 命に関わる損傷を含めて健康に影響を与える危険を警告します。

注意

注意マーク

- ・ 潜在的に有害な状況を意味します。
- ・ 操作及びクリーニングに関連している。
- ・ ストーブ本体またはその他の利点に影響をあたえる危険を警告します。

2.1.2 適切な使い方

安全な操作のための基本的要件はペレットストーブが適切に使われることです。

ペレットストーブの適切な使われ方は以下の条件を満たしていることが条件です。

- ・ それは生活空間として適切な部屋でのみ使用される場合
- ・ 後に述べる可燃物との離隔距離を確保する。(図 2 参照)
- ・ 適用可能な国際およびヨーロッパ基準だけでなくローカル基準にも準じている。
- ・ 国際的及びローカルでの使用条件を満たしている。
- ・ 十分な燃焼空気の供給と排気の排出ができる。
- ・ 取扱説明書のすべての安全手順に従っている。
- ・ 全ての安全対策を施し機能している。

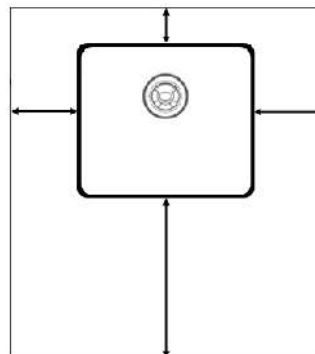
適切な使われ方には適時ならびに完璧に必要なクリーニング、点検が含まれます。メーカーにより書かれた上記以外の目的の承認のない使われ方はいかなる使われ方でも不敵切と判断します。使用者の不適切な使われ方による全ての損害の責任は使用者にあります。規格は変わる可能性がありますので、適応する規格に常に遵守して下さい。

注意：排気ドラフトの制限

排気ドラフトが大きい場合（30Pa 以上）ダンパーを設置して下さい。

離隔距離 背面：5 cm以上
側面：15 cm以上
前方：80 cm以上

図 2



床の保護：ストーブの下温度は稼動中僅かに上昇するだけです。必ずしも耐火プレートが必要という訳ではありません。

2.1.3 不適切な使われ方の例

不適切な使われ方による事象

- ・ 生命を脅かす損傷
- ・ ストーブの損傷およびその他財産への損害
- ・ 保証の無効

制限されていないが不適切な使われ方

- ・ 操作の安全に影響し、メーカーの承認なしに取り外されるようなストーブ構造の改造
- ・ ストーブの始動において
 - － 煙突が適切に接続されていない
 - － 燃焼室のドアが開いている。
 - － 取扱説明書を理解していない。
 - － 取扱説明書が間違っていたり読めなかったり翻訳版を入手できない。
- ・ メーカーの承認がないスペアパーツ、ペレットを使用する

2.2 ストーブ本体に関連する危険

2.2.1 火傷の危険



稼動中ペレットストーブ表面は 65℃ 以上になります。下記の安全ルール、防御手段で火傷に対して防止して下さい。

- ・ 熱い排気管には触れないで下さい。
- ・ クリーニングはストーブが完全に冷めてから行って下さい。

2.2.2. 火災の危険

稼動中ペレットストーブ表面は 65℃ 以上になります。



ストーブに毛布、タオル等を被せることは厳禁です。それらの材質はストーブへ置くと引火します。

煙突火災の場合どうするか？



絶対に電源コードを抜かないで下さい。内蔵された排気ファンはバックドラフトの炎がストーブ内へ進入することを防ぎます。

2.2.3 中毒および窒息の危険



ペレットストーブの排気ガスは一酸化炭素を含む有害な要素が含まれています。

意識を失った人を救助する場合：部屋に入る前に完全に換気すること。

注意：一酸化炭素

- ・ 酸素の吸収を妨げ窒息により死に至ります。
- ・ 無色無臭なガスです。
- ・ 不完全燃焼時に発生します。
- ・ 空気より重く、床の上に滞留します。

2.2.4 感電の危険

50Hz、1 秒以上の供給電圧について

50mA 以上の電流、50V 以上の電圧は非常に危険です。

3. 製品説明

3.1 取扱説明書の読み方

本文の参照

各章の文頭には章の番号を順番に付けてあります。最初の番号は章を意味しています。従って関連する表題の最初の番号を確認して下さい。例えば第 1 章の 1.2 項を読んで欲しいとき、1.2 項参照と表記してあります。

イラストとスケッチ

イラストとスケッチは縮小されていないだけでなく基本情報を意味しています。

章の数字

各表題の数字は順番につけられておりその構成は下に書かれています。

数字と箇所の数

それらはテキスト内の括弧（ ）で表示されています。例えば（図 01、POS3）

沢山の図、場所を示す数字は表示に関連して一覧になっています。参照する図が次のページに表示されている時など（POS3 参照）と表現しています。

位置の表示線

位置は図へラインで表示されています。

- ・ 目視できる場合はラインの終わり。
- ・ 隠れた場所の場合は矢印。

方向について

常にストーブ正面に向かって右／左、前／後で表現します。

寸法

寸法は特別な場合を除いて ISO 規格で使用される mm で表示しています。

3.2 燃料について

燃料として木質を選ぶならば二酸化炭素なしであなたの家を暖房します。廃棄された木材を規格化されたペレットへ圧縮することによりスクラップから安価で極めてクリーンで熱効率のよい燃料です。

木質ペレット

エネルギーから推定すると 2kg のペレットは約 10l の暖房用オイルに相当します。容量にすると 3 立方メートルのペレットは 1000l のオイルに相当します。

3.2.1 木質ペレットとは

木質ペレットは廃棄される未処理の木材から 100% 作られています。(削り屑、おが屑など) 乾燥した廃材は細かく砕かれ高圧でペレット状に成型されます。他の物質、及び添加物を加えることは認められていません。標準規格「DIN 51731」「DIN-Plus」「O-NORM M7135」にて定められた規格を下記に示します。

	規格
長さ	10～30mm
直径	6～8mm
密度	650kg/m ³
発熱量	4.9kwh/kg
含水率	6～12%
燃焼灰容量	1.5%以下
密度	1.0kg/dm ³ 以上

表：02

注意：輸送と保管

ペレットは湿気を防がなければなりません。湿ったペレットは膨張して使用出来ません。輸送及び保管中は乾燥状態を保って下さい。

3.2.2 良いペレットとは

原料の処理方法及び圧縮する量の違いにより結果としてペレットの品質に違いが生じます。明確な質的特長は使用する専用の製造装置により決まります。ペレットの品質は微妙だけれども簡単な違いは表面を見ると判断出来ます。

良好な品質：表面につやがあり滑らかです。この様なペレットは長さが均一で無駄な粉末も発生しません。

粗悪な品質：表面に縦、横のクラックがあるのは粗悪な証拠です。この様なペレットは長さが不均一で無駄な粉末も発生します。

3.3 ベルリーナについて

3.3.1 正面

- (1) コントロールパネル
- (2) 燃焼皿
- (3) 燃焼室ドア
- (4) フロントカバー
- (5) クリーニングポート
- (6) サイドパネル
- (7) 温風グリル
- (8) 燃料タンク

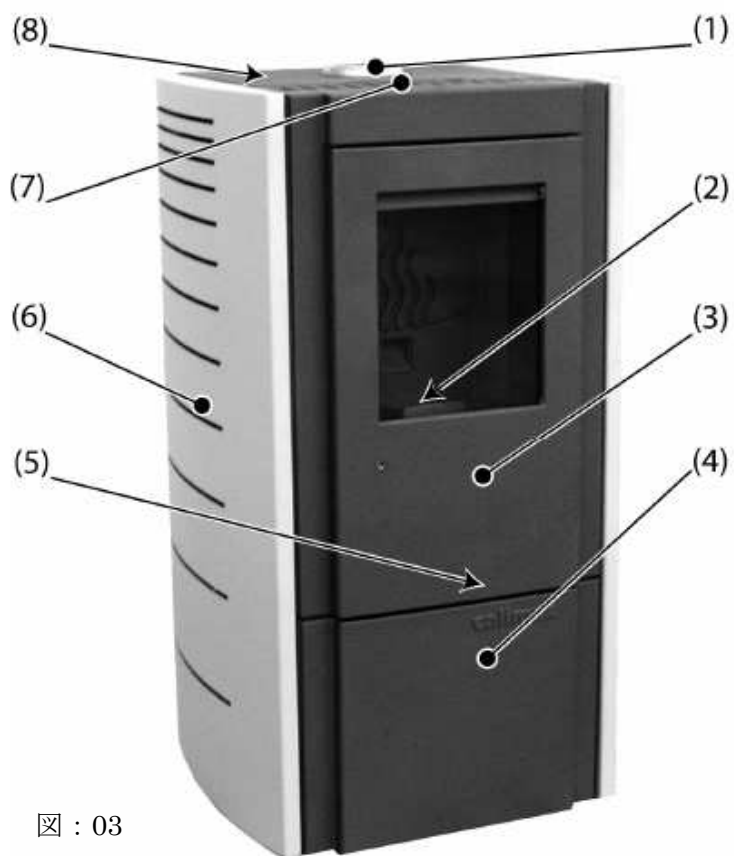


図 : 03

3.3.2 背面

- (1) 定格表示プレート
- (2) 排気ポート
- (3) 電源ポート、室温センサー
- (4) 吸気ポート
- (5) 外部充填口

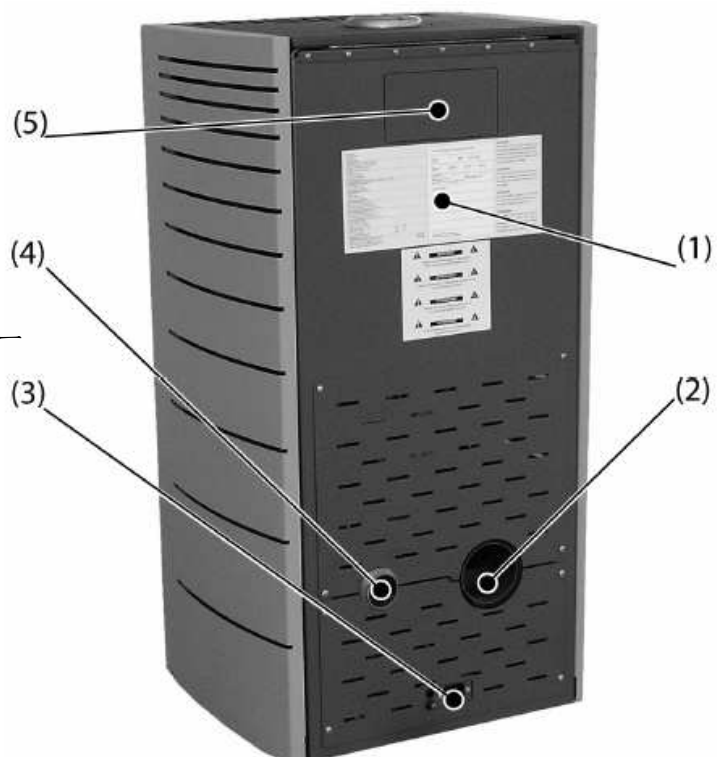


図 : 04

3.4 技術データ

3.4.1 概略

出力	2.5～5 k w
高さ	890mm
幅	480mm
奥行	430mm
排気口径	80mm
重量	115kg
タンク容量	12kg
暖房可能容積 *1	150m ³
燃焼時間 *2	20 h
熱効率（全効率） *3	89.5%
熱効率（断続運転） *3	91.7%
CO 排出量	体積比 0.04%以下
許容燃料	ダスト粉末が少ない木質ペレット 及び下記適合品 DIN51731、DIN-Plus、 「O-NORM M7135」
使用電源	230V／50Hz
消費電力	燃焼時 30～70W
室温サーモスタット	標準装備
セラミック着火ヒーター	標準装備
タイマー	標準装備
煙道ブラシ	標準装備

表：03 技術データ

*1：暖房可能容積は運転間隔、建屋の断熱性により異なります。

*2：燃焼時間は暖房面積及びペレットの品質に依存します。

*3：テスト時環境でのデータ

3.4.2 電気及び電気機器に対する廃棄指示（WEEE）

ペレットストーブは WEEE 規格に準じます。



図：05 WEEE

3.4.3 寸法

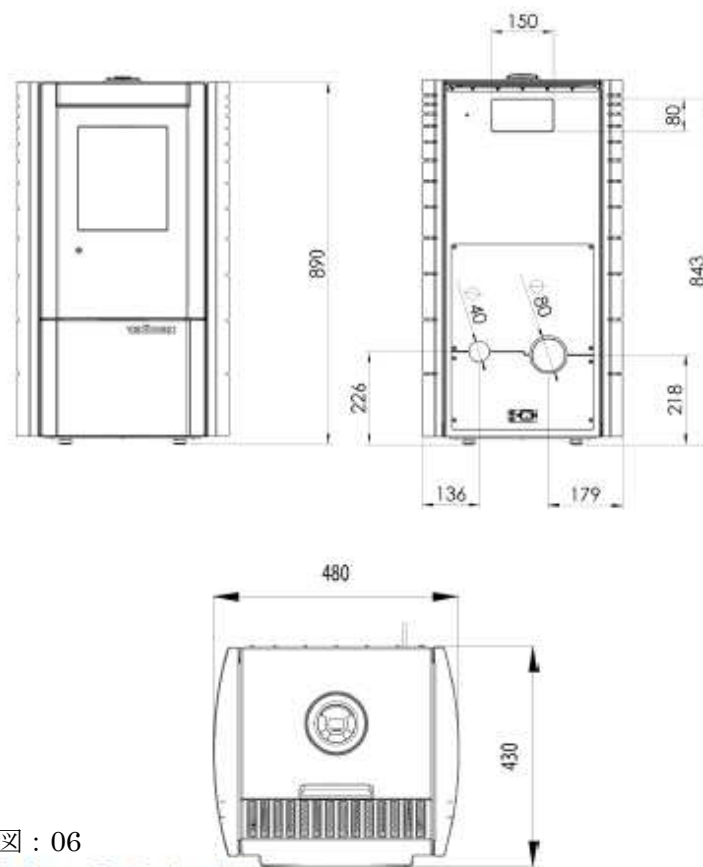


図 : 06
Fig. 06: Front, back and top

4. 設置

注意：常に設置する地域の法令に従って下さい。地域の法令により本取扱説明書の手順、数値が異なる場合がありますが法令に従って下さい。

4.1 概要

注意：適切なセットアップ

より詳細なセットアップについての情報は 2.1.2 項を参照して下さい。

4.1.1 複数のストーブを配置

複数のストーブを並列配置する場合、それぞれのストーブ毎に煙突を設置して下さい。
ペレットストーブを並列配置するのは適切な方法ではありません。

4.2 排気口と接続排気管

排気管をストーブの排気口と接続して下さい。ストーブと排気管は圧力損失が少なく、排気温度の降下が小さくなるような方法で適切に設置して下さい。(DIN 18 160 参照)

排気管は中を確認ならびにクリーニングできるようにして下さい。

排気管は別途購入して下さい。



煙突のドラフト圧は 4Pa 以上にして下さい。4Pa 以下の場合、燃焼に問題が生じる場合があります。

4.3 燃焼空気の取入れ

ドラフト効果により燃焼用空気はストーブが設置された部屋の空気を吸引します。十分な燃焼空気を確保できるようにして下さい。



絶対に室内の負圧が 4Pa 以上（ドラフト圧以下）にならないこと

- ・ 高断熱な家（エネルギー効率の良い家）
- ・ 換気扇を使用している時
- ・ セントラル空調を使用している時

ストーブが稼動中は空気の酸素量は減少します。

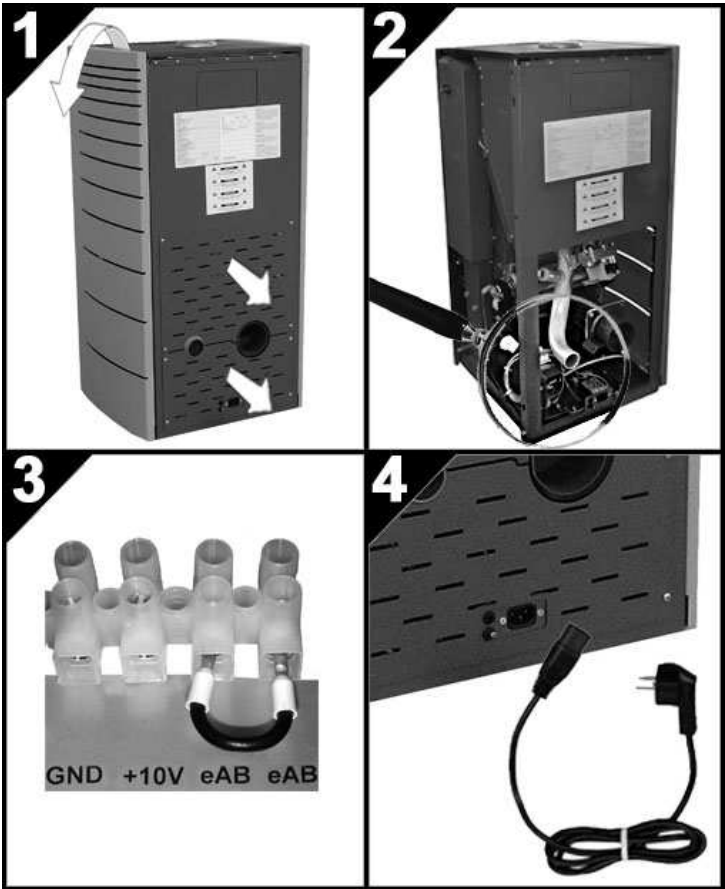
ペレットストーブは必要な燃焼空気を外気から取入れることが出来ます。もし外気を取入れる場合は下記に従って下さい。

- ・ 燃焼空気吸気管の外部取入れ口は建屋の外部か風通しの良い部屋から取入れて下さい。
- ・ 吸気管の外部取入れ口は埃や小動物が入らない様にして下さい。
- ・ 吸気管内部を点検できる様にして下さい。
- ・ 吸気管の規定を次に示します。（図：04 参照）

吸気管サイズ	許容長さ	90 度エルボ 許容設置数
内径 50mm	0.5m	1
内径 70mm	1m	1
内径 100mm	6m	3

表：04 吸気管の規定

4.4 電気配線



図：07 電気配線

4.4.1 外部入力無効機能

外部入力無効機能は追加可能な可変性能リレーとの接続が可能です。



通電しているリード線は感電死の危険があります。
ストーブの配電盤には通電しているリード線があります。
必ず、電源コードを抜いて行って下さい。

注意：決して電圧を外部入力無効スイッチコネクタへ掛けないで下さい。

外部入力無効スイッチコネクタへの電圧供給は制御装置を介します。

準備

- ・フィリップスタイプドライバー
- ・マイナス及びプラスドライバー
- ・必要部品に適応するケーブル

手順

電気配線 図：07の写真1

- ・ ストーブ右のサイドパネルを外して下さい。
- ・ 背面パネルのネジを緩めて下さい

電気配線 図：07の写真2、3

- ・ 「e A B」の結線を外して下さい。
- ・ 希望する装置のケーブルを差し込んで下さい。

グラウンドケーブルへケーブルシールドをネジ止めして下さい。

ストーブを再組みして下さい。

外部入力無効機能はプラグを差し込められ作動します。

4.4.2 外部入力機能

外部入力機能はストーブの熱をどのくらい出力するか入力するのに使用されます。

(入力電圧：直流 0～10V)



通電しているリード線は感電死の危険があります。
ストーブの配電盤には通電しているリード線があります。
必ず、電源コードを抜いて行って下さい。

注意：外部入力装置のコネクタへは 15V 以上の電圧を掛けないで下さい

外部入力装置への 15V 以上の電圧供給は制御装置を介して行います。

準備

- ・フィリップスタイプドライバー
- ・マイナス及びプラスドライバー
- ・必要部品に適応するケーブル

電気配線 図：07の写真1

- ・ ストープ右のサイドパネルを外して下さい。
- ・ 背面パネルのネジを緩めて下さい

電気配線 図：07の写真2、3

- ・ 入力装置の接続ケーブルをプラグへ差し込んで下さい。
- ・ 極性に注意して下さい。

グラウンドケーブルへケーブルシールドをネジ止めして下さい。

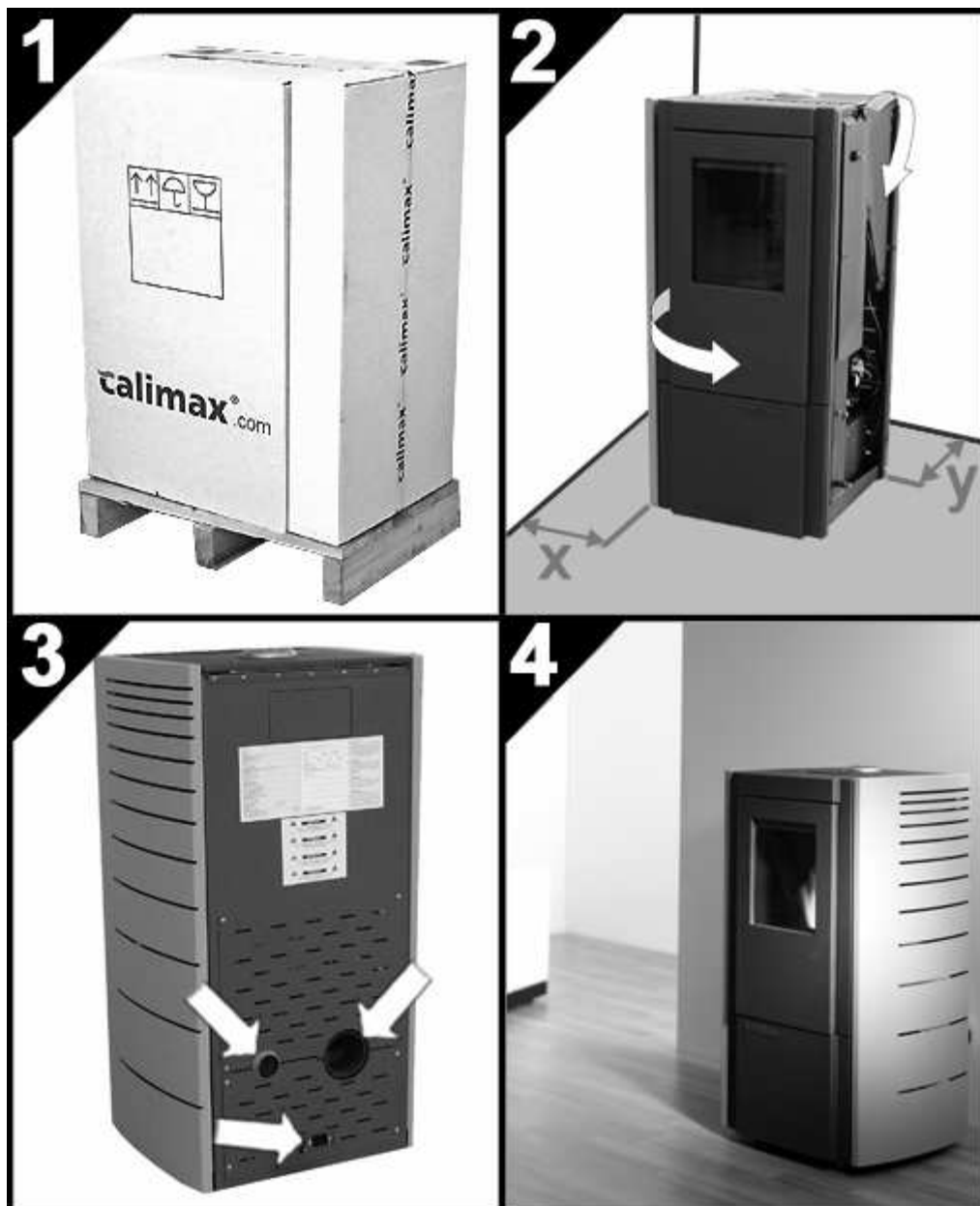
ストープを再組みして下さい。

外部入力装置が作動します。

4.4.3 電源供給

ストープと一緒に付属しているコード（交流 230V／50Hz）だけをタイプ F のコンセントへ差し込んで下さい。（図：07の写真4参照）

4.5 設置



図：08 設置の基本

手順 図：08の写真1

- ・ストーブ本体及び別梱包のサイドパネルの梱包を解いて下さい。
- ・2つの固定用ネジを緩めてパレットからストーブを降ろして下さい。

図：08の写真2

- ・ストーブを希望する場所へ配置して下さい。
- ・安全な離隔距離を保っているか測定して下さい。
- ・輸送時の熱交換器固定材を外して下さい。
- ・サイドパネルを取り付けて下さい。

図：08の写真3

- ・ストーブと煙突などを接続して下さい。
- ・地域に煙突マスターがいれば煙突の検査を受けて下さい。

図：08の写真4

- ・ストーブの操作が出来ます。



煙突マスターによる検査

ペレットストーブを設置する際、初めてのご使用前に地域の煙突マスター（専門の技術者）の検査を受けて下さい。初回検査を受けずに使用することは禁じられています。（各地域の条例に従って下さい。）

5 スタートと操作

5.1 稼動操作の機能的な特徴

ペレットストーブはリビングで木質ペレットを自動的に燃焼させるように設計されています。これは自動的に着火し、設定温度に達すると停止するという意味です。コントローラーは設定温度をベースに火力を調整します。従ってペレットストーブ与えられた要求に最適な火力調整を提供します。

5.1.1 セルフテスト

セルフテスト中は運転状態をチェックしています。下記の時セルフテストが稼動します。

- ・長時間停止状態の時
- ・毎クールダウンモードの後
- ・スタンバイモードの時

5.1.2 スタートモード

スタートモードは燃焼部が燃焼稼動可能状態へスムーズに移行出来る様準備します。スタートモードの時間はストーブの設定により依存します。スタートモードは次の3モードに分かれています。

スタートモード1：燃焼皿へのペレット供給

スタートモード2：着火する

スタートモード3：燃焼段階への準備

注意：スタートモード中の解除（切り替え）

スタート段階 3 までは燃焼稼動が終わりクーリングモードまで切り替えないで下さい。

5.1.3 燃焼モード

燃焼は完全自動で下記環境によって調整されます。

- ・使用するペレットの品質に合わせて調整されます。
- ・煙突および設置環境に合わせて調整されます。
- ・設定温度に合わせて再調整されます。
- ・定期的に調整します。

注意：クリーニングモード

燃焼モード時は4時間おきにクリーニングモードに入ります。クリーニングが終わると自動的に燃焼モードへ戻ります。

5.1.3 クールダウンモード

クールダウンモードは炎を安全に素早く消火します。蓄熱された熱は周囲へ送風されます。

クールダウンモードはフレキシブルに設計されています。消火される毎にクールダウンモードで稼動します。

5.1.5 スタンバイモード

設定温度に達するとストーブはスタンバイモードへ切り替わります。スタンバイモードの間は、設定された温度に降下すると自動的に再スタートします。

5.2 スタート



熱い表面に触ると火傷の恐れがあります。

稼動中、場所によってストーブの表面温度は 65℃以上に達する場合があります。ストーブに付属しているミトンを使って下さい。

注意：複数のストーブを同時に稼動させる場合の換気

通信システムに関連して複数のストーブを同時に稼動させると、間違った操作を引き起こします。この問題についての質問ならびに地域の規制についての情報のために販売店へお問い合わせ下さい。

注意：ホッパーへの補給

ホッパーへペレットを補給する際は次に注意して下さい。

- ・ゴミが落ちる。
- ・ペレットをこぼす。

注意：ゴミを燃やすな

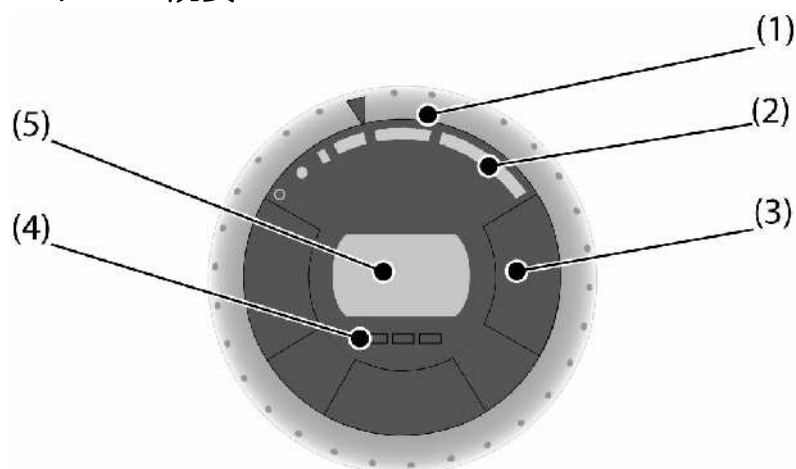
明らかな禁止事項です。

ストーブの着火

手順：下記確認下さい。

- ・電源コードは接続されているか
 - ・ペレットは補充されているか
 - ・燃焼皿に汚染物やクリンカーがないか
 - ・燃焼室ドアは閉まっているか
- ：設定温度はセットして下さい。
- ：ストーブをスタートさせて下さい

5.3 コントローラーの概要



図：09 コントローラーの説明

(1) セッティングリング

セッティングリングはストーブの燃焼状態を操作できます。

(2) 目盛り

目盛りはセッティングリングの状態を表示しています。

(3) キー

キーはメニューツリーの操作が可能です。

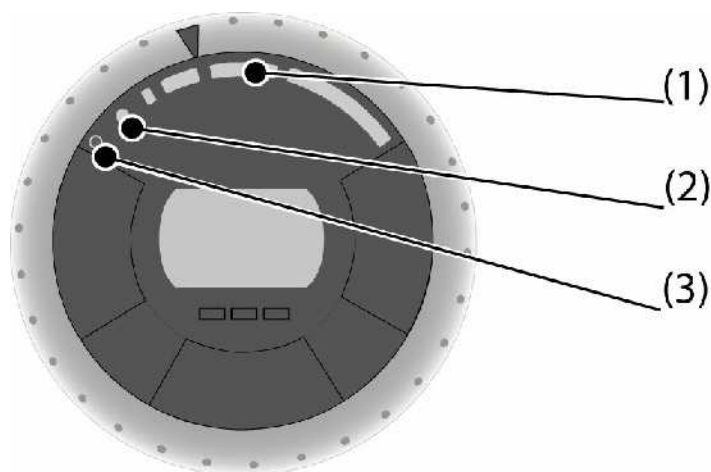
(4) シグナルダイオード

シグナルダイオードはストーブの稼動モードを表示します。

(5) ディスプレイ

ディスプレイは各モード及び3つのメニューを表示します

5.4 セッティングリング／目盛り



図：10 目盛りの説明

(1) 温度設定範囲の目盛り

希望温度はこの範囲に設定しなければなりません。範囲はストーブのモデルによって異なります。ディスプレイには現在のコントローラーの設定が表示されます。

- ・ 温風モデル 4 ～ 30℃
- ・ 温水モデル 68 ～ 75℃

(2) 外部入力時のセット位置

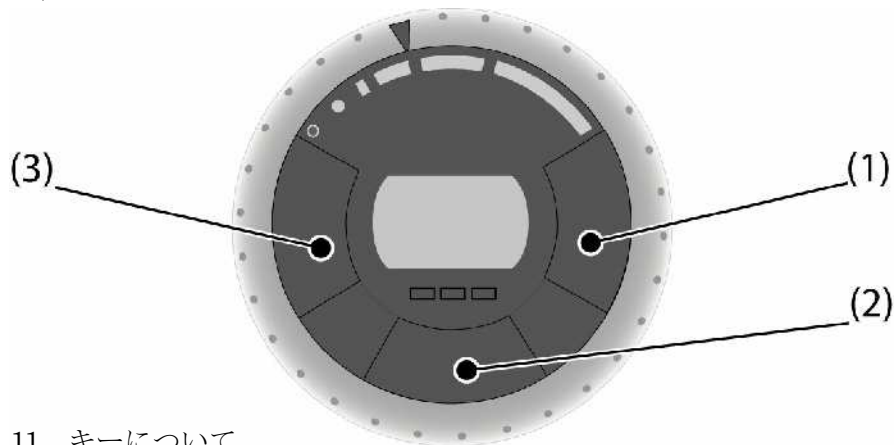
パラメーターは外部入力装置を使って入力して下さい。パラメーターは要求された出力を制御します。

(3) OFF の時のセット位置

外部入力装置を使っている場合は反応しません。下記パラメーターの稼動には影響ありません。

- ・ 設定温度
- ・ 外部入力解除
- ・ 外部入力
- ・ タイマープログラム

5.5 キーについて



図：11 キーについて

(1) キー T-1：スクロール、カウントアップ

このキーは下記の場合に使用します。

- ・ メニューツリーのオプションをナビゲートします。このキーを押すとメニューの項目をスクロール出来ます。最後のメニューをスクロールすると最初のメニューに戻ります。
- ・ 設定入力の場合はこのキーでカウントアップします。

(2) キー T-2：確認、メニュー

このキーは下記の場合に使用します。

- ・ 基本レベルからメニューへアクセスする場合。
- ・ メニュー項目の確認。
- ・ 設定変更の確認。

(3) キー T-3：戻り、カウントダウン

このキーは下記の場合に使用します。

- ・ 前のメニューに戻る時（キーを1回押す）
- ・ メインメニューに戻る時（3秒以上キーを長押）
- ・ 設定入力の場合はこのキーでカウントダウンします。

5.6 シグナルダイオード

		表示状態	
セルフテスト		■ ■ ■	赤の点滅
スタートモード	1	■ ■ ■	赤
	2	■ ■ □	赤
	3	■ ■ □ □	赤
燃焼モード		□ □ □	
スタンバイ		□ □ □	
クールダウンモード		□ ■ □	緑
クリーニングモード		■ ■ ■	緑

表：05 シグナルダイオード

注意：運転モードの定義

運転モードの説明については 5.1 章を参照下さい。

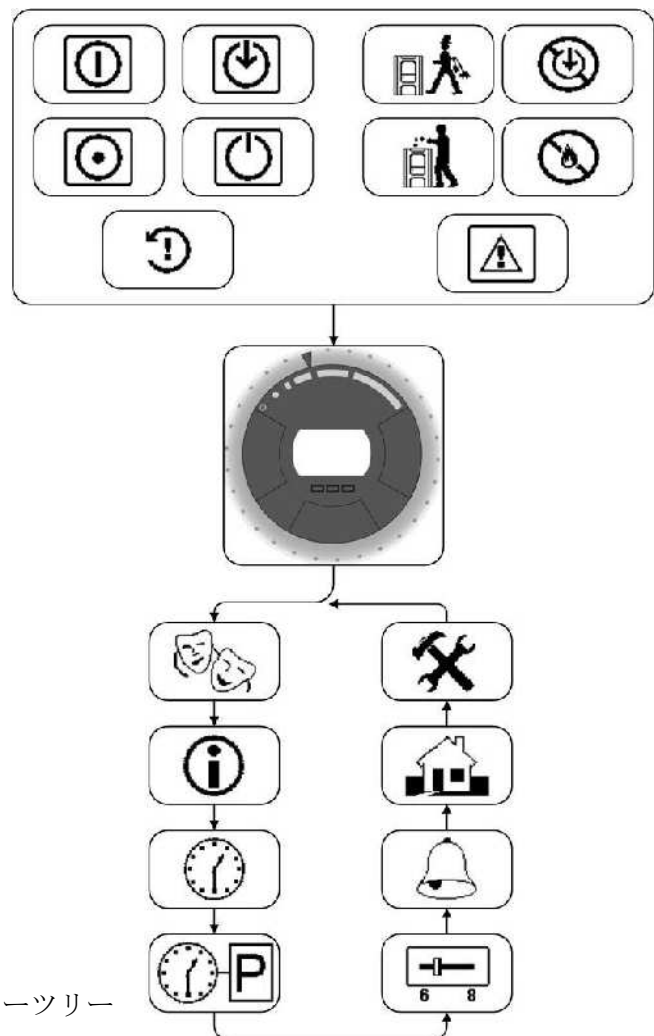
5.7 ディスプレイ

コントローラーにはオレンジ色のバックライトと搭載したディスプレイがあります。さまざまな情報を表示させたり変更することが出来ます。バックライトの切替えは次の通り。

ON：セッティングリングまたはキーボタンを操作した時

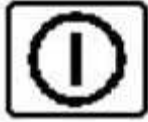
OFF：30 秒以上、上の様な操作をしなかった時

5.8 メニューツリーとシンボルマーク



図：12 メニューツリー

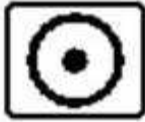
5.8.1 OFF



この時ストーブはOFF（完全停止）の状態です。

外部入力装置でも操作出来ません。セッティングリングをOFFのポジションにするとこのシンボルが表示されます。

5.8.2 ON



この時ストーブは正常運転の状態です。

設定温度をセットする時は温度表示と交互にこのシンボルが表示されます。

このシンボルが表示されるのは、

- ・ セッティングリングが温度設定範囲の位置にある時。
- ・ パーティモードが稼動しなかった時。

注意：外部入力解除

外部入力解除はこのモードを切り替えます。もし外部入力解除の場合ストーブはスタンバイモードとなります。

5.8.3 スタンバイ



この時ストーブは操作可能でいつでも自動着火が出来る状態です。

このシンボルは下記の時表示されます。

- ・ 設定温度より室温が高い場合
- ・ 外部入力解除により過熱からストーブを保護している時



ストーブへのカバー、可燃物の置物などは火災の危険があります。

スタンバイモードの時、ストーブは自動的に再スタートします。ストーブは発熱しますのでストーブの上に可燃物を置いたりストーブカバーを掛けたりしないで下さい。

5.8.4 外部入力中



この時ストーブは外部入力コントローラーにより制御されています。必要な燃焼設定は外部入力コントローラーから送信されます。

このシンボルはセッティングリングが外部入力の位置の時表示されます。

注意：外部入力

設定温度が 75℃のとき設定温度に達するとストーブはクールダウンモードに入ります。ただしこれは温水モデルのみ適用されます。

5.8.5 コントローラーのリセット指示



セッティングリング（コントローラー）のリセットが必要です。

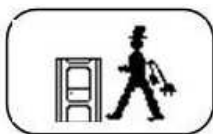
コントローラーの再設定したあと稼動可能となります。

リセットの手順

- ・ セッティングリングが「OFF」の位置ではない時はセッティングリングを「OFF」の位置にして下さい。
- ・ セッティングリングを外部入力の位置にセットして下さい。
- ・ セッティングリングを再び「OFF」の位置へ戻して下さい。
- ・ ストーブはリセットされOFFモードになります。

このシンボルはストーブ電源ケーブルを差し込むと必ず表示されます。

5.8.6 ストープのクリーニング指示（吸排気に問題があります。）



クリーニングして下さい。または室内が負圧になっています。

手順

- ・ ストープのクリーニングは本取扱説明書のクリーニング、メンテナンス、検査の章をご確認下さい。室内が負圧の場合、外気吸入などの対策が必要です。
- ・ T-2 キーを押して情報メッセージを確認して下さい。
- ・ ストープは再稼動可能となります。

このシンボルはセッティングリングが外部入力または温度設定範囲の時に表示されます。

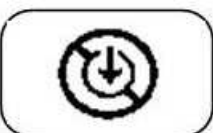
5.8.7 ペレットの補給指示



ペレットを補給して下さい。

このシンボルはセッティングリングが外部入力または温度設定範囲の時に表示されます。

5.8.8 外部入力エラー

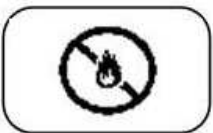


外部入力によって設定されたセッティングがエラーです。

外部入力装置およびセッティングを確認して下さい。

この表示はセッティングリングが外部入力の位置の時表示されます。

5.8.9 燃焼していません



燃焼が確認できません。下記ご確認ください。

- ・ ペレットの品質
- ・ ホッパーにペレットが補給されているか
- ・ ホッパー内にペレットの粉末が堆積していないか
- ・ 燃焼皿は汚れていないか
- ・ 燃焼センサーは汚れていないか

取扱説明書のクリーニング、メンテナンス、検査の章を参照してストープをクリーニングして下さい。

このシンボルはセッティングリングが外部入力、温度設定範囲の時に表示されます。

5.8.10 誤作動



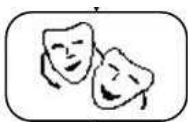
この警告シンボルと 4 桁のコードが交互に表示されます。

対応手順

- ・ コードを書きとめて下さい。
- ・ セッティングリングを「OFF」の位置へ戻して下さい。
- ・ 販売店へ下記を連絡して下さい。
 - ーコードナンバー
 - ーエラー前のストープの状態及びモード
 - ーストープのクリーニング状態

このシンボルはセッティングリングが外部入力、温度設定範囲の時に表示されます。

5.8.11 パーティーモード



パーティーモードは音が静かでも大きな燃焼を可能にする特別な燃焼モードです。このシンボルが表示されている間はパーティーモードで稼動します。パーティーモードで稼動している時、下記入力データは無効となります。

- ・ セッティングリングでの温度設定
- ・ プログラムタイマー

- ・外部入力からのシャットダウン

パーティーモードは4時間以下になるようメーカーでセットされています。その時間になると自動的にリセットされます。

注意：着火後にパーティーモードを選択すると必ず一旦クールダウンモードへ移行し、その後再び着火して初めてパーティーモードで稼動します。

クールダウンモードへの移行は下記の場合です。

- ・パーティーモードが稼動する前
- ・パーティーモードが終了した後

パーティーモードの設定

手順

- ・キーT-2でメニューへ入る
- ・パーティーモードを表示
- ・キーT-1で設定
- ・キーT-2で「ON」表示
- ・セッティングリングを温度設定の位置に合わせる
- ・パーティーモードが稼動しました。

5.8.12 情報の表示



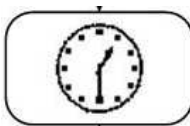
情報表示は最初の着火からの下記情報を表示します。

- ・着火の回数
- ・平均ペレット消費量 (kg)
- ・現在の設定温度 (°C)

情報の呼び出し手順

- ・キーT-2でメニューへ入る
- ・キーT-1でスクロールして情報シンボルを表示
- ・キーT-2で情報メニューを選択
- ・キーT-1で決定
- ・キーT-2で情報を表示させます。
- ・ディスプレイへ情報が表示されます

5.8.13 日時の設定



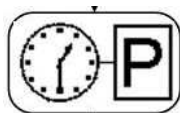
この表示の時、現在時刻及び曜日を設定できます。

時間と曜日の設定手順

- ・キーT-2でメニューに入ります。
- ・キーT-1でスクロールして日時の設定シンボルを表示させます。
- ・キーT-2で日時の設定メニューへ入ります。
- ・キーT-1で曜日または時間の設定を表示します。
- ・キーT-2で表示した設定へ入ります。
- ・キーT-1 (カウントアップ) T-3 (カウントダウン) を押して現在値へ合わせて下さい。
- ・キーT-2を押すと次の設定へ入ります。

- ・ 入力した時点で日時は稼動します。

5.8.14 プログラムタイマー



この表示の時はプログラムタイマーが働いています。基本のプログラムや温度設定は解除されます。プログラムタイマーをセットするとディスプレイ上にこのシンボルと通常の稼動モードシンボルが交互に表示されます。プログラムタイマーは毎日違う温度設定で4通りのプログラミングが可能です。

プログラムの設定温度は全てセッティングリングで設定されます。プログラム運転以外の時間は通常のメニューの設定温度で稼動します。

注意：スタートとストップ時間のプログラムについて

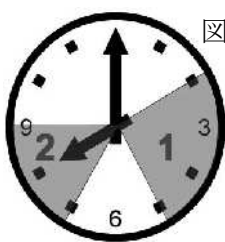
プログラムのスタートとストップの時間が同じ場合、プログラムは作動しません。

メニューアイテムの項目

	項目
Temperatures	通常の設定温度
DAY 1	月曜日
DAY 2	火曜日
DAY 3	水曜日
DAY 4	木曜日
DAY 5	金曜日
DAY 6	土曜日
DAY 7	日曜日
Start time	プログラム開始時間
Stop time	プログラム終了時間
Info	プログラム設定内容

表：06 メニューアイテム項目

月曜日のプログラム例



図：13 プログラム例

この例は月曜日に2通りのプログラムタイマーを入力する例です。

プログラム1：プログラム開始時間 午後2：00

プログラム終了時間 午後5：00

通常設定温度 18℃

プログラム2：プログラム開始時間 午後7：00

プログラム終了時間 午後9：00

通常設定温度 18℃

セッティングリングの設定温度は23℃

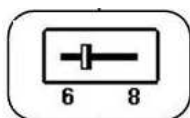
プログラム運転中（グレーゾーン）はセッティングリングの設定温度23℃が表示されます。プログラムタイマー以外の時間は通常設定温度の18℃が表示されます。

プログラムタイマーの待機設定手順

- ・ キーT-2でメニューに入ります。
- ・ キーT-1でスクロールしてプログラムタイマーのシンボルを表示。
- ・ キーT-2で設定に入ります。
- ・ キーT-2でON/OFFメニューを表示
- ・ キーT-1でONを表示
- ・ キーT-2でONを決定

プログラムタイマーは待機状態となります。

5.8.15 ペレット切替えスイッチ



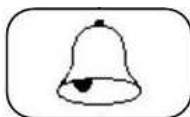
使用するペレットの直径に応じて切替えて下さい。6mm と 8mm を選択出来ます。メーカー出荷時は 6mm で設定されています。

選択手順

- ・ キーT-2でメニューへ入ります。
- ・ キーT-1でスクロールしてペレット切替えシンボルを表示させます。
- ・ キーT-2で設定に入ります。
- ・ キーT-1で選択するペレットのサイズを表示させます。
- ・ キーT-2で決定します。

選択したペレットサイズに対応できるようになります。

5.8.16 シグナルトーン



全てのメッセージはシグナル音を伴って表示されます。このシグナル音は鳴らさないようにすることも出来ます。

シグナル音をONにする手順

- ・ キーT-2でメニューへ入ります。
- ・ キーT-1でスクロールしてシグナルトーンシンボルを表示させます。
- ・ キーT-2でシグナルトーンのメニューへ入ります。
- ・ キーT-1でONを表示させます。
- ・ キーT-2で決定します。

シグナルトーンはONまたはOFFに変更出来ます。

5.8.17 メーカー設定値



メーカーの設定値をダウンロード出来ます。

注意：全てのユーザー設定が削除されます。

ダウンロードの手順

- ・ キーT-2でメニューに入ります。
- ・ キーT-1でスクロールしてメーカー設定値シンボルを表示させます。
- ・ キーT-2でメーカー設定値メニューへ入ります。
- ・ キーT-1でダウンロードする機能を表示させます。
- ・ キーT-2で機能を決定します。
- ・ キーT-2でセキュリティー質問を確認下さい。

メーカー設定値がダウンロードされます。

5.8.18 サービス技術者



サービス技術者だけがアクセスして下さい。

6. クリーニング、メンテナンス、検査

木質ペレットを燃焼させる過程において燃焼灰が発生します。従って定期的なクリーニング、メンテナンスが必要となります。



クリーニング前に下記事項を確認して下さい。

- ・ ストープが十分冷めていること
- ・ 燃焼灰が十分冷めていること
- ・ セッティングリングがOFFのポジションにあること

注意：クリーニングの頻度

- ・ 予期せぬ障害などの後
- ・ 燃焼皿に沈着物などがある場合
- ・ 燃焼が弱い時

注意：ストーブのあるお部屋は汚れます。

クリーニングの際は灰などが多少飛散しますのでお部屋が汚れることがあります。

6.1 クリーニング

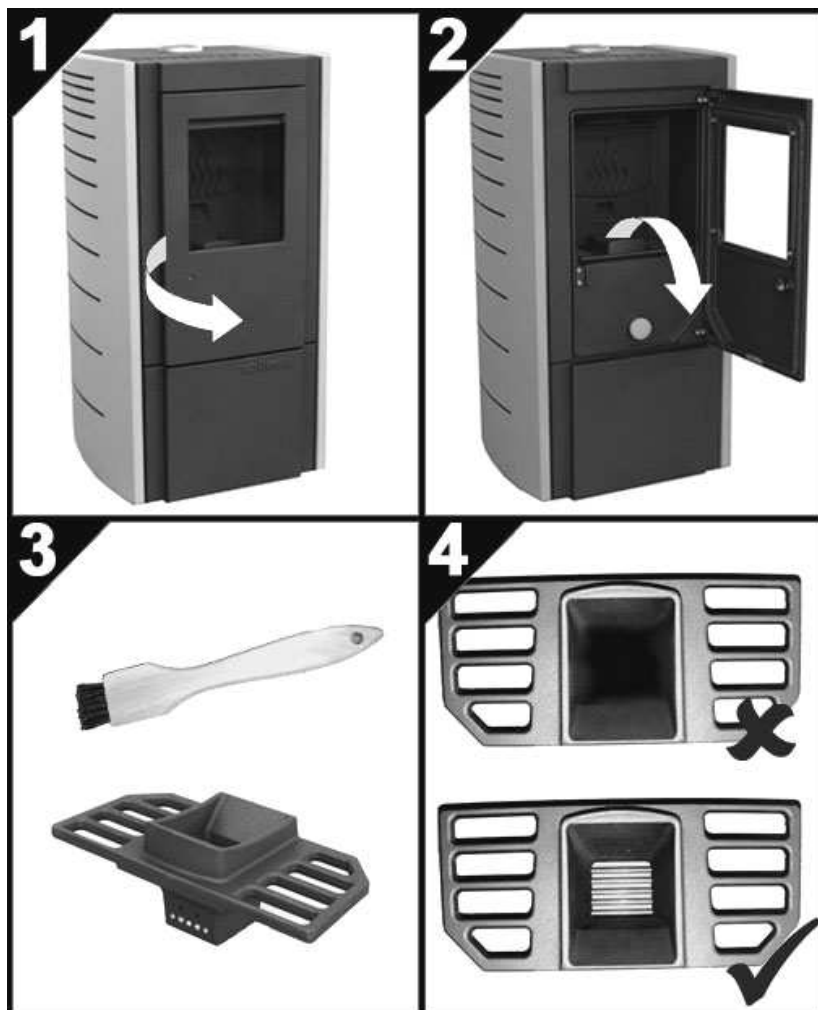
6.1.1 ストープ表面のクリーニング

鋳物や塗装仕上げ上の汚れは水または中性洗剤でふき取して下さい。



手荒い掃除や溶剤を使用すると表面にダメージを与えますので絶対にしないで下さい。

6.1.2 燃焼皿のクリーニング



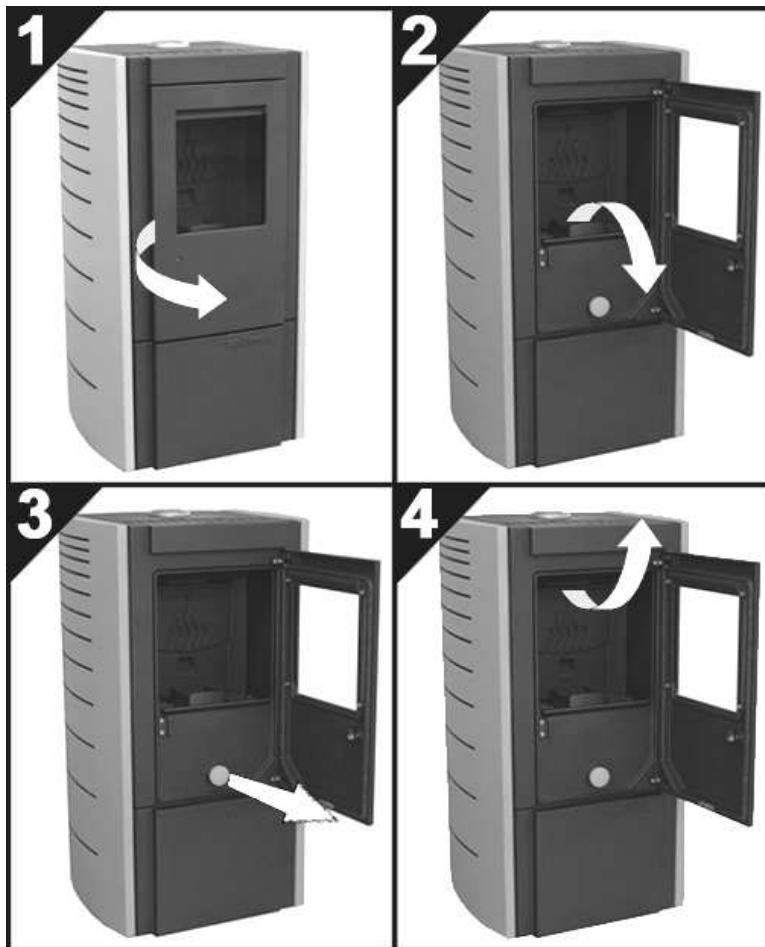
図：14

準備するもの：ドアキー、ワイヤーブラシ、灰捨て容器など

作業手順

- ・ 燃焼室ドアを開けて下さい（図：14 の 1 参照）
- ・ 燃焼皿を引き上げて外して下さい（図：14 の 2 参照）
- ・ 燃焼皿の汚れをワイヤーブラシで落として下さい（図：14 の 3,4 参照）
- ・ 燃焼皿を元の位置へ戻して下さい。

6.1.3 燃焼室のクリーニング



図：15



燃え残りのペレットがくすぶっていると焼けどの危険があります。

この様な場合、掃除機を壊したり再着火する場合がありますので、一旦金属の容器などへ移して安全を確認して掃除機で処理して下さい。

準備するもの：ドアキー、掃除機、灰受け容器

作業手順

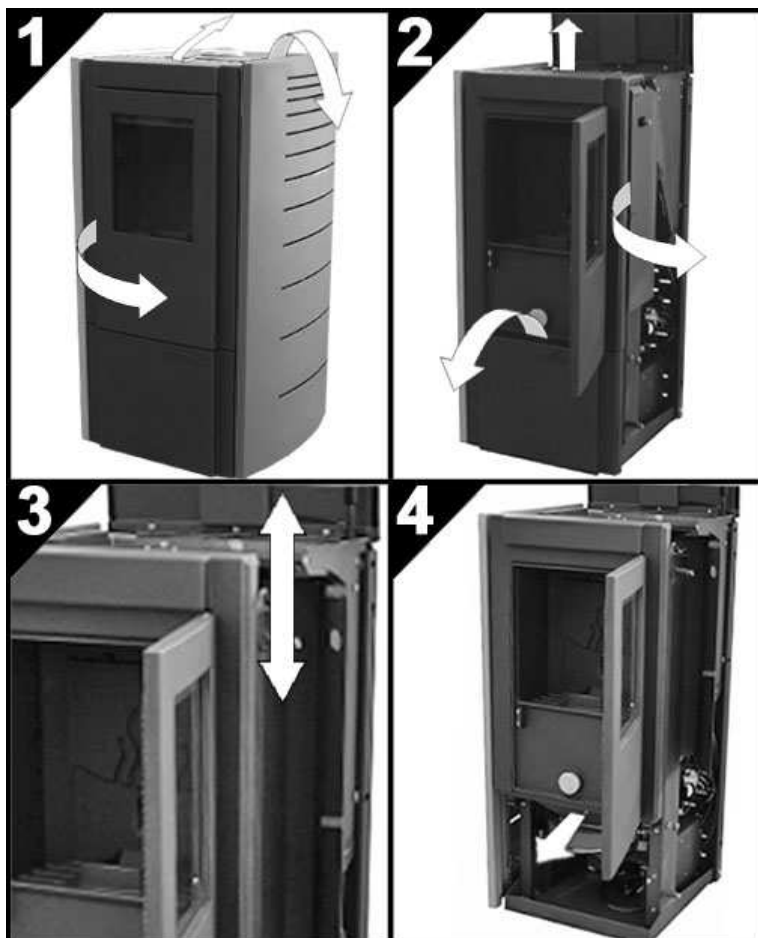
- ・ 燃焼室ドアを開けて下さい（図：15 の 1 参照）
- ・ 燃焼皿を引き上げて取り出して下さい。（図：15 の 2 参照）
- ・ 燃焼皿の灰を取り除いて下さい。
- ・ クリーニングポートのストッパーを引き出して下さい。（図：15 の 3 参照）
- ・ 掃除機などで確認できる灰を取り除いて下さい。（図：15 の 4 参照）
- ・ 上方や下がっているバッフルを押し出して下さい。
- ・ 熱交換器、燃焼センサーの灰を取り除いて下さい。
- ・ 周辺の灰を取り除いて下さい。
- ・ 外した部品を元に戻して下さい。

6.1.4 ホッパーのクリーニング

ホッパーが空に近づいたらペレットの粉末が堆積していないか確認して下さい。

注意：沢山のペレットの粉末がペレット搬送口へ堆積していると燃焼出力に影響を与えます。

6.1.5 熱交換チューブのクリーニング



図：16



ストーブの電子パネルには通電している配線がありますので感電の恐れがあります。必ずコンセントを抜いて作業して下さい。

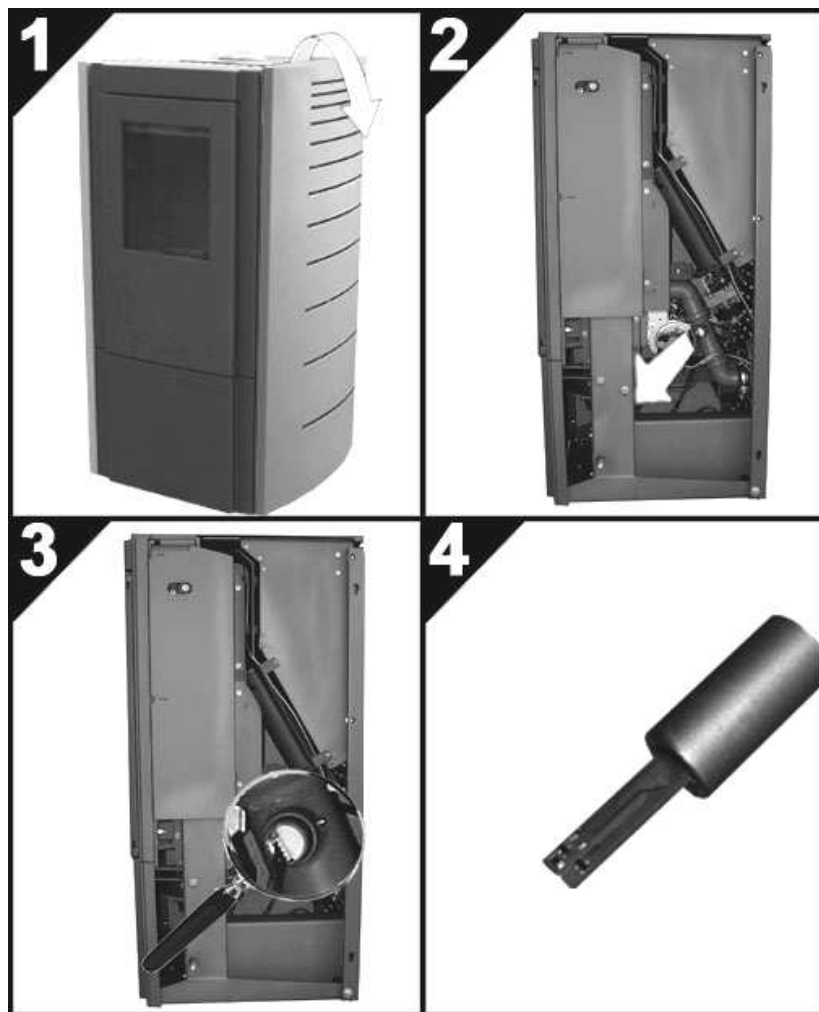
準備するもの：ドアキー、プラスドライバー、掃除機

クリーニング手順

- ・ 電源コードをコンセントから抜いて下さい。
- ・ ペレットタンクカバー及び燃焼室ドアを開けて下さい。そして右側のサイドパネルを外して下さい。（図：16の1参照）
- ・ 正面のプレート引っ張って外して下さい。また囲っている保護プレートを横から外して下さい。へこんだグリップと対流火格子からカバーを外して下さい。（図：16の2参照）
- ・ 煙道ブラシを何回か上下に動かして下さい。（図：16の3参照）
- ・ 蝶ナットを2回転緩めて、メタルカバーパネルを取り外して下さい。（図：16の4参照）
- ・ サービスポート裏の灰を掃除機で除去して下さい。
- ・ 分解手順と逆に再組みして下さい。

注意：クリーニングポートを再組みする時は再び本体とシールして下さい。

6.1.6 空気不足防止安全装置（ADSD）のクリーニング



図：17



ストーブの電子パネルには通電している配線がありますので感電の恐れがあります。必ずコンセントを抜いて作業して下さい。



手荒い掃除や溶剤を使用すると表面にダメージを与えますので絶対にしないで下さい。

準備するもの：帯電防止クロス

クリーニング手順

- ・ ストーブの電源コードをコンセントから抜いて下さい。
- ・ 右側のサイドパネルを外して下さい。（図：17の1参照）
- ・ ADSDを後へ引き出して下さい。（図：17の2、3参照）
- ・ 帯電防止クロスでADSDを拭いて下さい。（図：17の4参照）
- ・ 分解手順と逆に再組みして下さい。

6.2 メンテナンスと検査

注意：保証の無効

本取扱説明書のメンテナンス間隔に従わない場合、ストーブの保証は無効となります。

6.2.1 毎日またはペレット 10kg 消費後

- ・ ホッパー（残量チェック）
- ・ 燃焼室のクリーニング
- ・ 燃焼皿のクリーニング

6.2.2 毎年またはペレット 400kg 消費後

- ・ ホッパーにペレットの粉末が堆積していないか確認して下さい。
- ・ 熱交換チューブをクリーニングして下さい。
- ・ ADSD をクリーニングして下さい。

7 トラブルシューティング

事象	原因	対策
着火しない	設定温度が室温より低い (スタンバモード)	設定温度を上げる
	外部入力装置の故障	外部センサーを検査
	プログラムタイマー待機中	プログラム設定を確認
	セッティングリングが設定温度範囲位置になってない	設定範囲内に設定する
プログラム通りに作動しない	プログラムタイマーが待機状態になっていない。	メニューに入りプログラム待機状態にする
	外部入力の故障	外部センサーを検査
	設定温度が室温より低い (スタンバイモード)	設定温度を上げる
	タイマー設定が重なっている	設定を再確認
	プログラム設定温度が通常温度と同じになっている	設定を再確認
	セッティングリングが設定温度範囲位置になってない	設定範囲内に設定する
	日時設定が間違っている	確認して正しくセットする
	パーティーモードである	パーティーモードを解除
設定温度まで達しない	パーティーモードである	パーティーモードを解除